

## 役場庁舎に「スマホの相談窓口」を開設します！

スマートフォンを使っていて分からないことや、困っていることはありませんか。村職員や携帯ショップのスタッフが個別に相談に応じます。また周囲にスマートフォンの使い方でお困りの方にも、ぜひお勧めください。



**期日**▼6月6日・20日、7月4日・18日(全て木曜日)

**時間**▼午前10時～正午(1回の相談につき最大20分まで)

**場所**▼東海村役場(役場行政棟1階・売店脇スペース)

**対象**▼スマートフォン(メーカー不問)をお持ちで操作等にお悩みの方

**参加費**▼無料

**その他**▼▽ご自身のスマートフォンをお持ちください。▽内容によってはその場で答えできない場

合があります。▽機種変更や契約にかかる手続きはできません。▽事前申し込み不要で、当日に先着順で受け付けますので、お待ちいただく場合があります。▽スマホの相談窓口は毎月開設しています。8月以降の日程は、決まり次第「広報とうかい」や村公式LINEでお知らせします。

**問い合わせ**▼地域戦略課DX・働き方改革担当  
(☎282-1711 内線3014)

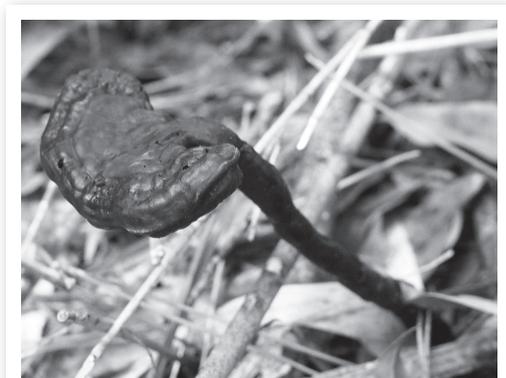
ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

### 孫杓子(マゴジャクシ)

村松虚空蔵尊の周囲には、砂丘の上にモミとスダジイが混生する森林が見られます。県内では、モミ林は主に筑波山や鷺子山などの標高400メートル前後の山地帯で発達しますが、鹿島神宮の境内など、標高の低い地域にも点在します。しかし、東海村のモミとスダジイの混交林は、海岸に近い砂丘上に立地する点で、県内の他地域ではあまり見られない景観です。

モミ林には独特なキノコ類が発生します。その一つに、「マゴジャクシ」というキノコがあります。マゴジャクシはタマチョレイタケ科マンネンタケ属に分類され、かさや柄の表面は光沢のある紫黒色から漆黒色で、かさの縁や裏面は白色です。キノコ全体が木質で堅く、高さ25センチメートル程度、かさの直径は10センチメートル程度になります。

マゴジャクシは、漢方薬として珍重され「靈芝」と呼ばれるマンネンタケに近縁で、それ自身も薬用となります。もともと、日本ではマンネンタケと



【モミの枯れ木の周囲に生えたマゴジャクシ(村松にて)】

マゴジャクシを区別せずに同一視して、さまざまな名前と呼んでいたようです。江戸中期の寛政11(1799)年に出版された「日本山海名産図会(木村兼葭堂著)によると、仙台ではこれらを「孫杓子」と呼び、体をかくのに利用していたそうです。確かにこれらは「孫の手」のようで、背中をかくのに適していそうです。

マゴジャクシはモミやクロマツなど、マツ科の針葉樹の枯れ木や切り株の上、あるいはそれらの周囲に発生して材や根を腐らせ、そこから栄養を得て成長します。昨年の夏から秋は、高温で乾燥した少雨の状態が長く続き、県内だけでなく日本各地でキノコは不作でした。そのような中でも、例年に比べてマゴジャクシをよく見かけたように感じます。東海村のモミとスダジイの混交林でも、秋から冬にかけて、モミの枯れ木の周囲で立派なマゴジャクシを多数観察しました。昨年はマゴジャクシにとつては「当たり年」だったのかもしれない。

慶應義塾大学准教授

糟谷 大河